

平成31年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査 における分析結果 リーフレット

【調査目的】

- 1 市教育委員会は、教育課程や指導方法等に関わる課題を明確にし、その充実・改善を図るとともに、教育行政施策に生かす。
- 2 各学校は、教育課程や指導方法等に関わる自校の課題・解決策を明確にし、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。

【調査の対象学年】

小学校 第5学年 1382名 中学校 第2学年 1128名

【調査日】

令和元年7月4日（木）

【調査の内容】

- 1 児童・生徒の学力向上を図るための調査
小学校第5学年（国語、社会、算数、理科）
中学校第2学年（国語、社会、数学、理科、外国語〈英語〉）
- 2 児童・生徒質問紙調査
- 3 学校質問紙調査

※今年度は、小学校新学習指導要領の全面実施に向けて、学習指導要領に示された目標や内容の実現状況を、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の3つの評価の観点（国語は4観点）から調査している。

目次

- 1 小学校国語（調査結果と正答率の低い問題分析及び授業改善のポイント）
- 2 小学校社会（調査結果と正答率の低い問題分析及び授業改善のポイント）
- 3 小学校算数（調査結果と正答率の低い問題分析及び授業改善のポイント）
- 4 小学校理科（調査結果と正答率の低い問題分析及び授業改善のポイント）
- 5 中学校国語（調査結果と正答率の低い問題分析及び授業改善のポイント）
- 6 中学校社会（調査結果と正答率の低い問題分析及び授業改善のポイント）
- 7 中学校数学（調査結果と正答率の低い問題分析及び授業改善のポイント）
- 8 中学校理科（調査結果と正答率の低い問題分析及び授業改善のポイント）
- 9 中学校英語（調査結果と正答率の低い問題分析及び授業改善のポイント）
- 10 児童・生徒質問紙、学校質問紙調査結果より



令和2年1月
立川市教育委員会

小学校国語の評価の観点及び問題ごとの正答率

	話す・聞く能力	書く能力	言語についての知識・理解・技能	読む能力	教科平均
東京都	65.9%	70.4%	65.9%	67.1%	67.0%
立川市	62.0%	67.3%	60.2%	64.1%	62.7%

問題番号	出題のねらい	評価の観点	東京都	立川市
①(1)	第4学年までに配当されている漢字を文脈に即して正しく読むことができる。	④	87.5%	84.2%
①(2)		④	86.3%	84.7%
②(1)	第3学年までに配当されている漢字を文脈に即して正しく書くことができる。	④	50.2%	45.0%
②(2)		④	90.3%	90.2%
③(1)	「問い」に対する「答え」の段落に着目し、文や文章を読むことができる。	③	83.2%	79.7%
③(2)	文章全体を捉え、中心となる語や文に着目して読むことができる。	③	66.2%	62.9%
④(1)	場面の様子に気を付けながら、物語の全体を捉えることができる。	③	50.1%	46.7%
④(2)	行動や会話に着目しながら、人物の様子や気持ちの変化を読むことができる。	③	65.1%	61.8%
④(3)		③	70.9%	69.3%
⑤(1)	自分の考えが明確になるように、文章の構成を考えることができる。	②	83.0%	81.3%
⑤(2)	文や文章の中で、語と語や文と文との続き方を考えて書くことができる。	②	83.8%	83.4%
⑤(3)	手紙の後付けの書き方を考えて書くことができる。	②	44.4%	37.1%
⑥(1)	互いの共通点や相違点を考え、進行に沿って話し合うことができる。	①	64.2%	59.6%
⑥(2)		①	76.7%	74.7%
⑥(3)		①	56.7%	51.6%
⑦	文の中における主語と述語の関係について理解している。	④	38.5%	25.5%
⑧(1)	修飾と被修飾との関係について理解している。	④	63.8%	55.9%
⑧(2)		④	45.0%	35.8%

(評価の観点) ①話す・聞く能力 ②書く能力 ③読む能力 ④言語についての知識・理解・技能

※網掛けは、正答率が低く、授業改善のポイントで取り上げた問題

小学校国語

出題のねらい▶文の中における主語と述語の関係について
理解している。

- 7 次の文の主語にあたる部分としゅつ語にあたる部分を、次のアからカまでの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えましょう。

わたしの 国語の 教科書は 後ろの 本だなに ある。
ア イ ウ エ オ カ

【正答】主語にあたる部分 ウ 【正答率】立川市 25.5%
述語にあたる部分 カ (完答) 東京都 38.5%

【この問題を間違えた理由についての分析】

主語に当たる部分の誤答の中で最も多いのは「ア」です。主語は人物であるという思い込みや、主語としてよく使われる「わたし」という言葉が文頭にあることがその原因として考えられます。

また、述語にあたる部分の誤答の中で最も多いのは、「オ」です。この誤答の要因としては、「教科書」はどこにあるかについて着目し、述語を選択したものによるものと考えられます。

この問題は、主語と述語両方を答えなければならない、述語に当たる部分は理解することができているが、照応する主語に当たる部分を適切に捉えることができていないということが考えられます。

平成30年度にも同様の問題が出題されていますが、正答率は、32.4%と低く、課題となっています。

立川スタンダードを活用した授業改善のポイント

A 体験から感じ取ったことを伝え合う を活用する。

- 友達が書いた文を、主語と述語に着目して主述の関係を確かめる活動を意図的に取り入れることがポイントです。

主語、述語の関係について、様々な場面で意識させ、定着を図ることが大切です。そのためには、日常の授業の中で、児童の書いた日記、作文や新聞の記事等を活用し、繰り返し主語と述語の関係を考えさせることで理解を深めることが期待できます。

次の例文を、次のように順序立てて読むことを通して、文の基本的な構成を確認することも有効です。

(例題) 次の文の主語にあたる部分と述語にあたる部分を、次のアからオまでの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えましょう。

わたしたちの 小学校は 昭和記念公園の 向こうに ある。
ア イ ウ エ オ

(正答 主語…イ、 述語…オ)

- ① 教師が主語を示して、述語を問う。「何が」(主語) = 「小学校は」⇒「どんなだ・何だ」(述語)を探す。
- ② 述語を示して、主語を問う。「ある」(述語) ⇒ 「何が」(主語)を探す。
- ③ 主語と述語を問う。

日本語は主語が省略されたり、文頭になかったりすることがあるので、述語を確定した上で主語(誰・何)を捉えさせることが大切です。

※主語は、「～は」、「～が」だけであるとか、文の初めにあるといった型で教えてしまうと間違えてしまうことがあるので注意が必要です。(「～も」「～こそ」等も主語になります。)

小学校社会の評価の観点及び問題ごとの正答率

	観察・資料活用の 技能	社会的な 思考・判断・表現	社会的事象についての 知識・理解	教科平均
東京都	66.5%	63.1%	69.8%	66.3%
立川市	64.3%	60.6%	66.3%	63.7%

問題 番号	出題のねらい	評価の 観点	東京都	立川市
①(1)	身近な地域の様子を四方位から読み取ることができる。	②	78.6%	76.6%
①(2)	地図から、地域の様子について読み取ることができる。	②	80.3%	77.8%
①(3)	複数の地図を結び付けて、地域の土地利用の様子や土地の標高について読み取ることができる。	②	82.3%	82.1%
②(1)	複数の資料から、23区全体のごみの量と、そのうちうめ立てをした量について読み取ることができる。	②	66.1%	62.7%
②(2)	資料から、ごみと資源の流れについて読み取ることができる。	②	44.8%	42.9%
②(3)	資料から読み取ったことを根拠として、東京都の廃棄物の処理についての課題とその解決に向けて必要なことについて考えることができる。	①	70.9%	65.6%
③(1)	複数の資料から、地域の年中行事の特徴について読み取ることができる。	②	61.0%	58.8%
③(2)	地域の年中行事について調べた内容を、時間の経過に沿って読み取り、年表にまとめることができる。	②	72.9%	68.4%
③(3)	年中行事を受け継いできた人たちの話から、その願いや思いについて考えることができる。	①	53.4%	50.9%
④(1)	消費者の願いと結び付けながら商店の工夫について考えることができる。	①	73.9%	72.4%
④(2)	47都道府県の名称と位置を理解している。	③	65.3%	59.3%
⑤(1)	自分たちが通う学校がある区市町村の地理的位置を理解している。	③	59.5%	56.9%
⑤(2)	東京都の特色ある地域の地理的位置について理解している。	③	65.0%	59.4%
⑤(3)	東京都の土地の標高について理解している。	③	89.5%	89.5%
⑥(1)	交通事故発生時の、通信指令センターにおける対処の様子を読み取ることができる。	②	45.9%	46.4%
⑥(2)	「地いき安全マップ」をよりよくするために必要な資料を選ぶことができる。	①	60.8%	58.8%
⑦(1)	複数の資料から、調べるために必要な資料を選ぶことができる。	②	66.4%	63.3%
⑦(2)	複数の資料から、県内の特色ある地域に関わる人々がどのようにして地域の活性化に努めているかを考えることができる。	①	56.5%	55.2%

(評価の観点) ①社会的な思考・判断・表現 ②観察・資料活用の技能 ③社会的事象についての知識・理解

※網掛けは、正答率が低く、授業改善のポイントで取り上げた問題

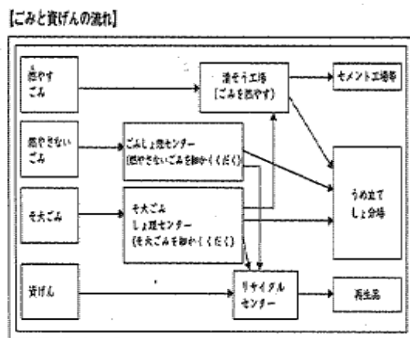
小学校社会

出題のねらい▶資料から、ごみと資源の流れについて読み取ることができる。

【問題の概要】

図【ごみと資げんの流れ】から分かることとして最もふさわしいものを、下のアからエまでの中から1つ選び、記号で答えましょう。

- ア 燃やすごみは、清そう工場に運ばれ、細かくくだかれたそ大ごみとともに燃やされている。
- イ 燃やすごみは、清そう工場で燃やした後、全てうめ立てしよ分場へ運ばれる。
- ウ そ大ごみは、細かくくだかれた後、全てリサイクルセンターとうめ立てしよ分場へ運ばれ、しよ理される。
- エ 燃やさないごみは、細かくくだかれた後、全てうめ立てしよ分場へ運ばれる。



【正答】ア【正答率】

立川市 42.9%

東京都 44.8%

【この問題を間違えた理由についての分析】

誤答の中で最も多いのは「ウ」です。

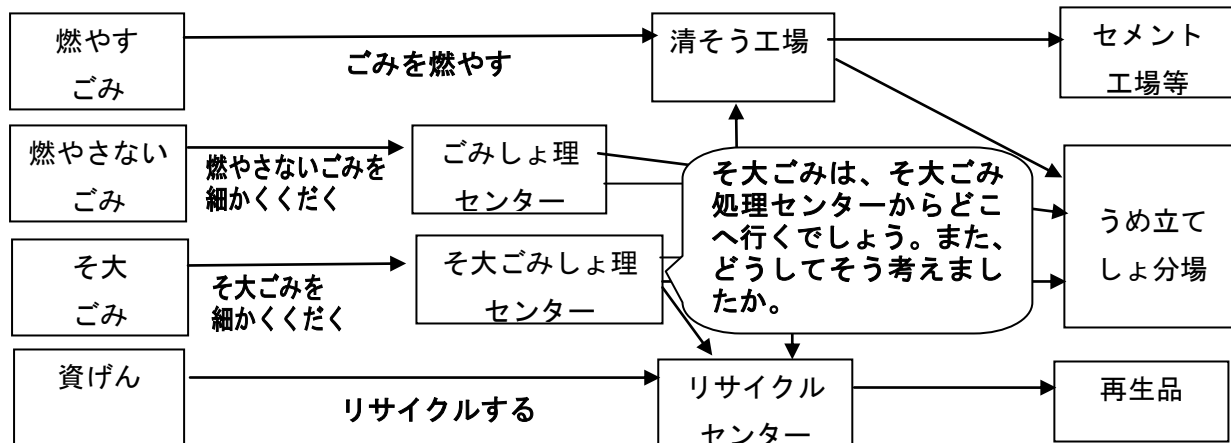
この誤答の要因として、粗大ごみは粗大ごみ処理センターにおいて細かく砕かれた後に、清掃工場に運ばれ燃やされているものもあることを正しく読み取ることができなかったことによるものと考えられます。

立川スタンダードを活用した授業改善のポイント

D 自ら得た情報から必要な情報を取り出し、比較・関連付ける を活用する。

- 児童が見学などで調べてきたことを図で整理し、目的と手段や、原因と結果などの関係について発問し、社会的事象の特色や相互の関連、社会的事象の意味について考えさせることがポイントです。

ごみ処理場見学の後、「調べて分かったこと」を児童に発言させます。その後、教師が「なぜそう考えたのですか。」や、「どこからそう考えましたか。」などのように原因や理由、目的を問う発問を意図的に行い、黒板に分類・整理していきます。このような手だてを講じてその原因や目的について考えさせることで、児童に「社会的事象の特色や相互の関連、社会的事象の意味」を捉えさせるようにすることが必要です。



小学校算数の評価の観点及び問題ごとの正答率

	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	教科平均
東京都	46.4%	65.2%	67.8%	60.0%
立川市	39.6%	58.6%	63.4%	53.9%

問題番号	出題のねらい	評価の観点	東京都	立川市
①(1)	四則の混合した計算ができる。	②	70.4%	70.0%
①(2)	小数－小数の計算ができる。	②	57.3%	46.9%
①(3)	帯分数＋帯分数（同分母）の計算ができる。	②	81.6%	78.9%
①(4)	小数×小数の計算ができる。	②	51.2%	50.1%
①(5)	小数÷整数の計算ができる。	②	43.2%	21.3%
②(1)	数の相対的な大きさ（1/10にした数）について理解している。	③	91.5%	90.0%
②(2)	数の相対的な大きさ（100万の何個分）について理解している。	③	69.4%	68.4%
②(3)	数の相対的な大きさ（0.01の何個分）について理解している。	③	76.0%	65.6%
③(1)	いろいろな四角形の特徴（辺、対角線）について理解している。	③	40.8%	34.0%
③(2)	いろいろな四角形の特徴（角）について理解している。	③	83.0%	81.0%
④(1)①	二つの数量関係を表す表から、数量の関係を式に表すことができる。	①	55.9%	33.9%
④(1)②	数量の関係をもとにして、周りの長さを求めることができる。	②	84.9%	80.5%
④(2)	場面からきまりを見付けて、問題を解決することができる。	①	52.9%	51.4%
⑤(1)	半径や直径、円の中心について理解している。	③	45.9%	41.6%
⑤(2)	コンパスを使って長さを確かめることができる。	②	61.3%	62.0%
⑥	計算のきまりを活用し、工夫して計算することができる。	②	50.9%	40.0%
⑦(1)	複合図形の面積を求める式とその考え方を表す図とを関連付けることができる。	①	55.8%	48.0%
⑦(2)	複合図形の面積を求めることができる。	②	53.9%	49.3%
⑦(3)	面積の公式を活用して、問題を解決することができる。	①	42.3%	33.7%
⑧(1)	180度より大きい角度の求め方を考えることができる。	①	43.0%	45.5%
⑧(2)	角の大きさを回転の大きさとして捉えることができる。	①	41.4%	37.0%
⑨(1)	基準量と割合から比較量を求めることができる。	②	84.1%	82.6%
⑨(2)	比較量と割合から基準量を求めることができる。	②	63.7%	51.4%
⑨(3)	比較量と基準量から割合を求めることができる。	②	79.4%	70.3%
⑩(1)	二次元表から特徴を読み取ることができる。	①	40.0%	33.4%
⑩(2)	分かっていることを関連付けて、二次元表を作成することができる。	①	39.6%	34.1%

（評価の観点）①数学的な考え方 ②数量や図形についての技能 ③数量や図形についての知識・理解
 ※網掛けは、正答率が低く、授業改善のポイントで取り上げた問題

小学校算数

出題のねらい▶小数÷整数の計算ができる。

1 (5) 57.3 ÷ 4 (商は一の位まで求めて、あまりも出しましょう。)

【正答】14あまり1.3 【正答率】立川市 21.3% 東京都 43.2%

【この問題を間違えた理由についての分析】

誤答の中で最も多いのは「14.3あまり1」です。この誤答の要因として考えられるのは、筆算をした際にわられる数の末位まで商を立てて計算しこと、あまりの小数点の処理を誤って計算したことによるものと考えられます。

立川スタンダードを活用した授業改善のポイント

C 発見したきまり・ルール・しくみなどを伝え合う を活用する。

○計算の仕方を筋道立てて説明させることがポイントです。

本問は計算の技能を図る問題ですが、授業に当たっては、自分のつまずきに応じて繰り返し練習させるだけでなく、下の＜児童の筆算の例＞や＜児童の説明の例＞のように、同じ式であっても設問の条件に応じて商が変わることに気付かせたり、その場合の小数点の処理の仕方を説明させたりするなど、計算の仕方を筋道立てて考えさせることがポイントです。

問題 7.4 Lのお茶から、2 Lペットボトルのお茶は何本とれますか。

【わりきれぬまで計算した場合】

＜児童の筆算の例＞

$$\begin{array}{r} 3.7 \\ 2 \overline{) 7.4} \\ \underline{6} \\ 14 \\ \underline{14} \\ 0 \end{array}$$

＜児童の説明の例＞

- C1: 7.4 ÷ 2 = 3.7だから、3.7本とれます。
C2: 2 Lペットボトルが何本という問題だから、条件にあっていないのではないかな。
C3: わりきれぬまでではなく、商を一の位まで求めるのではないかな。

【商を一の位まで求めた場合】

＜児童の筆算の例＞

$$\begin{array}{r} 3 \\ 2 \overline{) 7.4} \\ \underline{6} \\ 14 \end{array}$$

＜児童の説明の例＞

- C4: 7.4 ÷ 2 = 3あまり14だから、3本とれて14 Lあまります。
C5: あまりがわられる数より大きくなっている。14は0.1の14こぶんだから、1.4ではないかな。
C6: けん算をすると、2 × 3 + 1.4 = 7.4となるので、あまりは1.4 (L)だ。

＜児童の筆算の例＞

$$\begin{array}{r} 3 \\ 2 \overline{) 7.4} \\ \underline{6} \\ 1 \downarrow 4 \end{array}$$

＜児童の説明の例＞

- C7: あまりの小数点は、わられる数の小数点にそろえて打てばよさそうだな。
C8: 同じ式であっても、条件によって商やあまりが変わる場合がありそうだな。
C9: このきまりが使えるのか、その他の式でも計算してみよう。

小学校理科の評価の観点及び問題ごとの正答率

	観察・実験の 技能	科学的な 思考・表現	自然事象についての 知識・理解	教科平均
東京都	66.4%	52.9%	55.0%	56.6%
立川市	64.2%	51.7%	51.3%	54.2%

問題 番号	出題のねらい	評価の 観点	東京都	立川市
①(1)	光の性質について、質的变化や量的変化、時間的变化に着目して解決の方法を発送することができる。	①	70.5%	69.9%
①(2)	物に光を当てると、物の明るさや暖かさが変わることを捉えることができる。	①	47.8%	45.3%
②(1)	温度計の適切な使い方を理解している。	②	74.2%	72.3%
②(2)	太陽の動き方と影のでき方とを関連付けて、地面の温度変化のグラフについて考えることができる。	①	35.0%	34.1%
③(1)	はかりの適切な使い方を理解している。	②	87.7%	88.4%
③(2)	物は、形が変わっても重さが変わらないことを理解している。	③	77.6%	78.9%
③(3)	物の体積を同じにしたときの重さを基に、種類を考えることができる。	①	38.4%	38.7%
④(1)	乾電池とプロペラを一つの輪のようにつないだときの名称を理解している。	③	55.6%	50.2%
④(2)	電気の性質を理解し、電気を通す物と通さない物を理解している。	③	29.3%	24.7%
④(3)①	乾電池の向きが反対であるときの簡易検流計の様子を理解している。	③	70.1%	64.0%
④(3)②	回路のつなぎ方を変えたときの、回路を流れる電流の大きさと電流のはたらきとを関係付けて考察することができる。	③	18.7%	14.8%
⑤	閉じ込めた空気は押し縮められるが、水は押し縮められないことを理解している。	③	68.1%	64.7%
⑥(1)	磁石の性質について調べる活動を通して、差異点や共通点を基に問題を見いだすことができる。	①	60.9%	59.0%
⑥(2)①	予想が正しかった場合に得られる実験の結果について考えることができる。	①	55.9%	52.4%
⑥(2)②	実験結果から、磁石の性質について、より妥当な考えに改善することができる。	①	61.5%	62.6%
⑦	植物の成長の様子と観察記録から気付いたこととを関係付けて考えることができる。	③	77.0%	74.6%
⑧(1)	水の温度を変化させたときの、水の体積や状態の変化を読み取ることができる。	②	64.1%	59.4%
⑧(2)	水は温度によって、水蒸気や氷に変わることを理解している。	③	43.7%	38.2%
⑧(3)	実験器具の取り扱い方や、安全に実験するための方法を理解している。	②	39.4%	36.7%

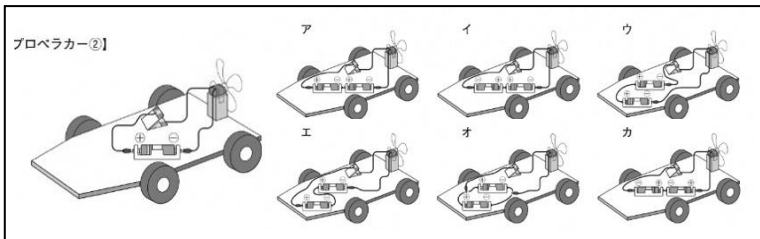
(評価の観点) ①社会的な思考・判断・表現 ②観察・資料活用 of 技能 ③社会的現象についての知識・理解

※網掛けは、正答率が低く、授業改善のポイントで取り上げた問題

小学校理科

出題のねらい▶ 回路のつなぎ方を変えたときの、回路を流れる電流の大きさと電流のはたらきとを関係付けて考察することができる。

- 4 (3) ② (略) そこで、ひろしくんは、かん電池の数とつなぎ方をくふうすることにしました。進む方向を変えずに、進む速さが【プロペラカー②】よりも速くなるかん電池のつなぎ方としてふさわしいものを、下のアからカまでのの中から全て選び、記号で答えましょう。



【この問題を間違えた理由についての分析】

誤答の中で最も多いのは「ア・エ・カ」です。この誤答の要因として考えられるのは、乾電池を直列回路でつなぐと速く進むことは理解しているが、乾電池の向きが変わると電流の向きも変わるためプロペラが逆回転し、進む方向が変わることを捉えられなかったことによるものと考えられます。

【正 答】 ア・エ

【正答率】 立川市 14.8%

東京都 18.7%

立川スタンダードを活用した授業改善のポイント

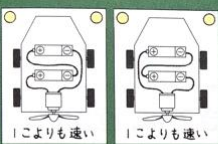
D 自ら得た情報から必要な情報を取り出し、比較・関係付ける を活用する。

- 予想や仮説に基づく実験の結果を比較・関連付け、原因（要因）と結果を確実に理解できるような指導の充実を図ることがポイントです。

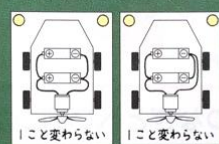
4年生の理科においては、児童一人ひとりの予想や仮説に基づいた観察・実験を行うことが大切です。また、得られた結果を比較したり、原因（要因）と結果を関係付けたりしながら、さまざまな情報を整理し、確実な理解につながるようにすることが重要です。なお、今回の教科書改訂では、実際の授業場面を想定した紙面の工夫がなされており、指導者の参考としての活用も期待できます。

かん電池の数を2こにふやして、プロペラカーを速く走らせよう。

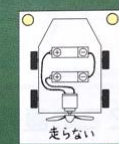
かん電池1このときよりも速く走るつなぎ方



かん電池1このときと速さがあまり変わらないつなぎ方

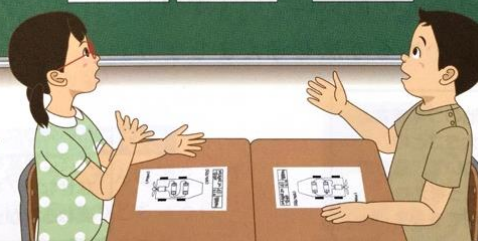


走らないつなぎ方



速さにているグループのつなぎ方に共通していることは何ですか？

速いグループは、2このかん電池の+極と一極をつないでいます。



速さが変わらないグループは、+極どうし、一極どうしをつないでいます。

出展：【平成31年度採択】 未来をひらく小学理科4（教育出版）より

中学校国語の評価の観点及び問題ごとの正答率

	話す・聞く能力	書く能力	言語についての 知識・理解・技能	読む能力	教科平均
東京都	74.8%	58.9%	69.1%	79.3%	71.9%
立川市	72.1%	57.4%	65.9%	76.2%	69.1%

問題 番号	出題のねらい	評価の 観点	東京都	立川市
①(1)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むことができる。	④	62.8%	58.7%
①(2)		④	79.9%	75.6%
①(3)		④	85.0%	81.6%
②(1)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くことができる。	④	70.6%	70.0%
②(2)		④	73.5%	76.2%
②(3)		④	25.5%	17.6%
③(1)	指示語が指し示す内容を捉えることができる。	④	93.2%	91.1%
③(2)	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができる。	④	69.8%	64.5%
④(1)	語句の係り受けについて理解し、適切に文を書くことができる。	④	92.2%	89.7%
④(2)		④	38.6%	33.8%
⑤(1)	表現のねらいや工夫を、場面と結び付けて読み取ることができる。	③	79.9%	75.7%
⑤(2)	ある場面での登場人物の様子を読み取ることができる。	③	73.5%	70.8%
⑤(3)	ある場面での登場人物の気持ちを読み取ることができる。	③	90.2%	87.1%
⑤(4)	ある場面での登場人物の行動の理由を読み取ることができる。	③	83.7%	82.1%
⑥(1)	意味のまとめごと、文章全体における役割を捉えることができる。	③	76.2%	72.7%
⑥(2)	段落ごとに内容を捉えることができる。	③	85.0%	83.9%
⑥(3)	文章と図との関係を考えながら内容を捉えることができる。	③	74.7%	70.4%
⑥(4)	文章の構成や展開について自分の考えをもつことができる。	③	70.9%	67.2%
⑦(1)	目的や意図に応じて材料を集め、自分の考えをまとめることができる。	②	55.0%	54.9%
⑦(2)	伝えたい事実や事柄について、根拠を明確にして書くことができる。	②	77.8%	74.8%
⑦(3)	書いた文章を互いに読み合い、根拠の明確さなどについて助言をすることができる。	②	43.8%	42.6%
⑧(1)	必要に応じて質問しながら聞き取ることができる。	①	70.4%	68.0%
⑧(2)		①	84.5%	80.7%
⑧(3)	話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつことができる。	①	69.4%	67.7%

(評価の観点) ①話す・聞く能力 ②書く能力 ③読む能力 ④言語についての知識・理解・技能

※網掛けは、正答率が低く、授業改善のポイントで取り上げた問題

中学校国語

出題のねらい▶文の中における主語と述語の関係について
理解している。

4 (2)

「明日から学校で運動会に向けて練習が始まる。」の学校でが直接かかる部分として最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 明日から イ 運動会に ウ 練習が エ 始まる

【正答】エ

【正答率】立川市 33.8% 東京都 38.6%

【この問題を間違えた理由についての分析】

本問は、語句の係り受けについて理解し、適切に文を書くことができるかをみる問題です。誤答の中で最も反応率が高いのは「ウ」で、42.9%（東京都）です。この誤答の要因として、「学校で」が「練習が始まる」に係るを考え、選択肢にある「練習が」を解答したことによるものと考えられます。次の文節に係る場合の係り受けを正確に捉えることはできますが、離れた文節に係る場合の係り受けを正確に捉えることには課題があることが分かります。

立川スタンダードを活用した授業改善のポイント

E 互いに考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる を活用する。

○言葉の特徴やきまりに関する基礎的な事項を様々な場面で活用させる指導の充実を図ることがポイントです。

- 語句の係り受けについて理解し、適切に分を書く力にも課題がみられる。係り受けの学習の際には、文節に関する基礎的な知識を活用できるよう、必要に応じて文節の学習に立ち戻るなどして、文節相互の関係を正確に考えることが大切です。特に、離れた文節に係る連用修飾語の係り受けについては丁寧に指導し、正確に理解させることが重要です。
- 連用修飾語の間違いをなくすために、文の中の述語（動詞、形容詞、形容動詞）に注目させ、その言葉を修飾している言葉（つながる言葉）を見付けさせる活動を多く取り入れます。
- 修飾語を文中で移動させても、意味が通る文になっている場合があることに着目し、実際に移動させて読み直させ、修飾・被修飾の関係を実感させます。
- 「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の指導を関連させます。文を書く学習では、文を詳しくする言葉を意図的に使わせるとともに、修飾・被修飾の関係を生徒自身が正しく捉えられるようにします。
- 「かかる」という言葉が理解できていない場合は、「直接つながる」、「互いに強い結び付きがある」など、代わりの言葉を使って意味理解を進めさせます。

＜主語・述語、修飾語・被修飾語の関係を総合的に捉える問題例＞

(例題) 次の文は二通りの意味に解釈できる。二通りそれぞれの意味が伝わるように書き換えよう。

- ①小さな花の絵を描く。
- ②僕は太郎と花子を訪問した。

中学校社会の評価の観点及び問題ごとの正答率

	資料活用の 技能	社会的な 思考・判断・表現	社会的事象についての 知識・理解	教科平均
東京都	61.9%	48.7%	41.1%	51.1%
立川市	57.7%	44.6%	37.4%	47.1%

問題番号	出題のねらい	評価の観点	東京都	立川市
①(1)	世界地図を用いて、大陸の位置関係を読み取ることができる。	②	63.9%	58.7%
①(2)	主な国の地球上の位置関係を理解している。	③	26.2%	21.3%
①(3)	地球上の位置を緯度・経度を用いて表すことができる。	②	67.2%	60.0%
①(4)	世界各地の人々の生活と時差とを関連付けて捉えることができる。	①	63.9%	58.2%
②(1)	世界の気候帯の分布を表した主題図を用いて、雨温図を読み取ることができる。	②	73.7%	68.5%
②(2)	雨温図と特色のある服装との関連を読み取ることができる。	②	63.6%	65.8%
②(3)	人々の生活の特色と自然条件とを関連付けて捉えることができる。	①	70.0%	67.6%
②(4)	世界の主な宗教の分布と人々の生活の様子とを関連付けて捉えることができる。	①	48.7%	44.3%
③(1)	北アメリカ州の地形的特色を理解している。	③	48.9%	40.3%
③(2)	アメリカ合衆国の農業の特色を、資料から読み取ることができる。	②	67.1%	61.9%
③(3)	アメリカ合衆国の農業の特色を、二つの主題図から読み取ることができる。	②	67.5%	64.5%
③(4)	アメリカ合衆国の工業の特色を、資料と関連付けて説明することができる。	①	59.1%	54.3%
③(5)	世界の主な国々について、国の位置と産業の特色とを関連付けて捉えることができる。	①	21.1%	18.6%
④(1)	中国文明の発展について理解している。	③	37.3%	34.0%
④(2)	世界の古代文明の位置と特色とを比較して捉えることができる。	①	37.4%	33.5%
④(3)	年代の表し方について理解している。	③	54.2%	49.5%
⑤(1)	大和朝廷(大和政権)について、資料と関連付けて捉えることができる。	①	46.8%	44.5%
⑤(2)	律令国家の形成について、資料と関連付けて捉えることができる。	①	48.3%	45.7%
⑤(3)	奈良時代の税制と土地制度について理解している。	③	42.9%	40.2%
⑤(4)	古代までの日本の主な人物の業績について理解している。	③	57.7%	56.4%
⑥(1)	武士の政治への進出の過程について理解している。	③	20.5%	20.4%
⑥(2)	承久の乱後の日本の様子を資料と関連付けて捉えることができる。	①	43.4%	36.7%
⑥(3)	永仁の徳政令が出された理由について、資料と関連付けて捉えることができる。	①	53.0%	43.9%
⑥(4)	鎌倉時代の政治体制について、資料と関連付けて捉えることができる。	①	43.7%	43.3%
⑥(5)	鎌倉時代と室町時代の民衆の生活の様子の違いを資料から読み取ることができる。	②	56.5%	52.1%
⑦(1)	資料から創建した年を読み取ることができる。	②	59.1%	55.0%
⑦(2)	奈良の文化財の特徴を資料から読み取ることができる。	②	38.4%	32.7%

(評価の観点) ①社会的な思考・判断・表現 ②資料活用の技能 ③社会的事象についての知識・理解

※網掛けは、正答率が低く、授業改善のポイントで取り上げた問題

中学校社会

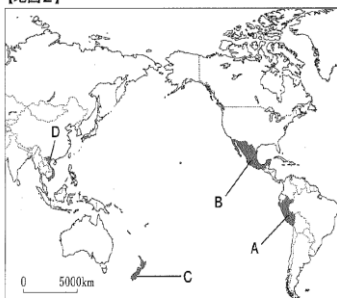
出題のねらい▶世界の主な国々について、国の位置と産業の特色とを関連付けて捉えることができる。

(5) たかひろくんは、アメリカ合衆国が参加しているAPEC（アジア太平洋経済協力）について調べました。次の【説明文】は、下の【地図2】中の■で示したAPECに加盟しているA～Dのいずれかの国の様子についてまとめたものです。下の【表】のA～Eは、【地図2】中のA～Dのいずれかの国の2015年における輸出額、主要輸出品の輸出額に占める割合、輸出相手国の輸出額に占める割合を示したものです。【説明文】で述べている国の位置として最も適切なものを、【地図2】中のA～Dから1つ選び、記号で答えなさい。また、【説明文】で述べている国の2015年における輸出額、主要輸出品の輸出額に占める割合、輸出相手国の輸出額に占める割合として最も適切なものを、【表】のA～Eの中から1つ選び、記号で答えなさい。

【説明文】

この国は、16世紀にスペイン人が侵入してきたことによって、現在ではスペイン語を公用語としている。豊富な鉱産資源を有し、沿岸で石油を産出するほか、天然ガス・銀・鉛・亜鉛なども産出し、特に銀の産出量は世界1位（2017年）となっている。1993年にAPECに参加し、近年では、輸出向けの製造・輸出拠点として、海外の自動車、電気・電子機器メーカーが進出し、工業国として発展を遂げている。

【地図2】



【表】

	輸出額 (百万ドル)	主要輸出品の輸出額に占める割合(%)
		輸出相手国の輸出額に占める割合(%)
ア	380763	機械類 (37.0)、自動車 (23.6)、原油 (4.9) アメリカ合衆国 (81.2)、カナダ (2.8)、中国 (1.3)
イ	162061	機械類 (35.5)、衣類 (13.5)、履物 (7.7) アメリカ合衆国 (20.7)、中国 (10.2)、日本 (8.7)
ウ	34360	酪農産品 (23.6)、肉類 (14.4)、野菜と果物 (6.1) 中国 (17.6)、オーストラリア (17.0)、アメリカ合衆国 (11.8)
エ	34236	銅鉱 (19.8)、金〔非貨幣用〕 (17.0)、野菜と果物 (9.1) 中国 (22.1)、アメリカ合衆国 (15.1)、スイス (8.1)

【正答】B・ア（完答）

【正答率】

立川市 18.6%

東京都 21.1%

【この問題を間違えた理由についての分析】

誤答の中で最も多いのが、国の位置を選ぶ設問では「A」です。輸出額等を選ぶ設問では「イ」です。この誤答の要因としては、【説明文】の「現在ではスペイン語を公用語としている。」の記述から南アメリカ州の国と誤って捉えてしまったこと、【説明文】中の国と【表】中の主要輸出品の輸出額に占める割合とを関連付けて捉えることができなかったこと、また、【説明文】、【地図2】、【表】を関連付けて捉えることができなかったことによるものと考えられます。

立川スタンダードを活用した授業改善のポイント

D 自ら得た情報から必要な情報を取り出し、比較・関連付ける を活用する。

○様々な情報の中から必要な情報を取り出し、比較・関連付けて正しく読み取るよう指導することがポイントです。

写真や図表、グラフなどの様々な情報から必要な情報を正しく読み取る。

読み取った情報の意図や背景、理由を理解・解釈・推論する。

ブラジルの森林面積は、なぜ減少し続けているのだろう

地理の教科書【社会科中学生の地理（帝国書院）】の複数の資料を提示して考えさせる。

P94「ブラジルのコーヒー豆と大豆の生産」

P95「南アメリカの植生と農業」

P95「ブラジルの輸出品の変化」

※ICTを活用して拡大提示したり、グループで協議をしたりしながら考えさせるとよい。

【読み取った情報を比較・検討・推論する】

○アマゾン地域の開発

・鉱山・油田開発、牧場、畑

○大豆、コーヒー豆栽培

・年々増加、大規模栽培、価格上昇

ブラジルの森林減少の背景には、農地の拡大や道路建設等の地域開発がある。地域開発による産業の発展と環境保護のバランスをとることが今後の課題である。

中学校数学の評価の観点及び問題ごとの正答率

	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	教科平均
東京都	31.4%	62.4%	63.3%	54.5%
立川市	29.5%	59.2%	62.0%	52.2%

問題番号	出題のねらい	評価の観点	東京都	立川市
①(1)	最高気温と最低気温の差を求める式を作ることができる。	③	52.9%	49.8%
①(2)	正負の数の減法をすることができる。	②	88.3%	85.9%
①(3)	正負の数の除法をすることができる。	②	40.1%	35.0%
①(4)	正負の数を利用して平均を工夫して求めることができる。	①	38.9%	35.3%
②(1)	式の値を求めることができる。	②	55.5%	53.7%
②(2)	分配法則を含む文字式の計算をすることができる。	②	66.9%	65.2%
②(3)	1次方程式を解くことができる。	②	76.0%	72.3%
②(4)	等式の変形をすることができる。	②	54.1%	50.1%
③(1)①	図形のある部分の長さを、文字を使った式で表すことができる。	②	52.5%	49.2%
③(1)②	全ての値について成り立つことを示すために必要な方法が分かる。	①	39.7%	41.7%
③(2)	式の考え方を表す図が分かる。	①	45.2%	43.3%
④(1)	ある数量を、文字を使った式で表すことができる。	②	67.2%	64.9%
④(2)	方程式から、何を x と表したかが分かる。	①	27.9%	24.0%
⑤(1)	関数の定義について理解している。	③	27.8%	25.8%
⑤(2)	座標を座標平面に表すことができる。	③	74.5%	72.1%
⑤(3)	グラフから、水面の変化の様子について考察することができる。	①	17.0%	14.2%
⑥(1)	角の二等分線の作図をすることができる。	②	65.7%	61.0%
⑥(2)	作図した図を見て、その意味について考えることができる。	①	19.6%	18.3%
⑦(1)	円錐の体積を求めることができる。	②	48.4%	44.5%
⑦(2)	円錐の側面の展開図が分かる。	③	87.1%	87.2%
⑦(3)	見取り図について分かる。	③	75.5%	78.0%
⑧(1)	ヒストグラムから、代表値について読み取ることができる。	③	61.9%	59.1%
⑧(2)	階級の幅を変えたヒストグラムを選ぶことができる。	②	71.8%	69.0%

(評価の観点) ①数学的な見方や考え方 ②数学的な技能 ③数量や図形などについての知識・理解

※網掛けは、正答率が低く、授業改善のポイントで取り上げた問題

中学校数学

出題のねらい▶関数の定義について理解している。

- 5 (1) 周の長さが 40 cm の長方形では、「縦の長さを決めると、それにともなって面積がただ 1 つに決まる」という関係があります。この関係を次の【文】のように表すとき、①と②に当てはまる言葉の組み合わせとして最も適切なものを、下のア～エの中から 1 つ選び、記号で答えなさい。

【文】

①は②の関数である。

	①	②
ア	周の長さ	面積
イ	面積	周の長さ
ウ	縦の長さ	面積
エ	面積	縦の長さ

【正 答】エ

【正答率】立川市 25.8%

東京都 27.8%

【この問題を間違えた理由についての分析】

誤答の中で最も多いのは「ウ」です。この誤答の要因として考えられるのは、関数における二つの数量の対応関係について誤って理解していることによるものと考えられます。

立川スタンダードを活用した授業改善のポイント

B 調べた事実を正確に理解し、理解したことを伝え合う を活用する。

- 既習の知識と関連付けるとともに、様々な事象の考察を通して意味を理解できるような指導の充実を図ることがポイントです。

新たな知識を習得していく過程では、既存の知識と関連付けたり組み合わせたりしていくことにより、その内容に関する知識の確実な習得を図ることが大切です。

例えば、今回のような関数（比例）の学習では、新たな概念として扱うのではなく、小学校算数科において習得した比例の性質を基に、具体的な事象の中にある二つの数量を見だし、それらの間の変化や対応について調べ、関数（比例）関係を見だし考察することなどから、関数（比例）についての理解を深められるようにします。

- | | | |
|--|---|--|
| <p>問1 ポップコーンのワゴン
並んでいる人数と待ち時間の関係</p> | ➡ | <p>C1 : 1人2分なら5人で10分。比例だ。
C2 : $y = 2 \times x$</p> |
| <p>問2 20 cm のひも
切った長さと残りの長さの関係
<u>T : 2つの式に共通点はないかな。</u></p> | ➡ | <p>C3 : 10 cm 切ったら残りの長さは 30 cm。
C4 : $y = 20 - x$。比例ではない。
C5 : どちらの式も = の左が y で右に x。
C6 : x が決まると y が決まると言える。</p> |

変数 x の値を決めると、それにともなって変数 y の値もただ 1 つ決まる ⇒ y は x の関数

- | | | |
|---|---|---|
| <p>問3 周の長さが 40 cm の長方形
縦の長さと面積の関係</p> | ➡ | <p>C7 : 縦の長さが 5 cm なら面積は 75 cm²。
C8 : y の値がただ 1 つ決まるので関数だ。</p> |
| <p>問4 60 個のアメを x 人で分けたとき…</p> | ➡ | <p>C9 : 10 人のとき一人は 6 個…関数だ。</p> |

中学校理科の評価の観点及び問題ごとの正答率

	観察・実験の 技能	科学的な 思考・表現	自然事象についての 知識・理解	教科平均
東京都	60.2%	43.9%	47.4%	49.5%
立川市	57.3%	42.6%	44.1%	46.9%

問題 番号	出題のねらい	評価の 観点	東京都	立川市
①(1)	ルーペの使い方を理解している。	②	64.9%	62.1%
①(2)	葉、茎、根のつくりの基本的な特徴を理解している。	③	39.8%	37.0%
①(3)①	植物の葉が光合成をするときの気体の出入りを理解している。	③	54.9%	51.8%
①(3)②	植物のはたらきを調べるために比較する実験を識別することができる。	①	67.9%	64.3%
①(4)	対照実験について理解している。	①	72.0%	72.4%
②(1)	溶解度曲線を読み取ることができる。	②	60.3%	54.8%
②(2)	質量パーセント濃度について理解している。	③	30.2%	27.5%
②(3)	実験結果を正しく読み取り、溶解度の表と関連付けて考えることができる。	①	34.6%	31.0%
③(1)	液体が気体に状態変化するときの粒子のふるまいについて理解している。	③	58.2%	49.2%
③(2)	温められた気体の密度について考えることができる。	①	42.1%	41.1%
③(3)	液体と固体の粒子の運動について理解している。	③	67.3%	63.5%
④(1)	水圧と水の深さとの関係について理解している。	③	55.8%	56.5%
④(2)	実験の結果についてグラフを分析して解釈することができる。	②	61.9%	58.3%
⑤(1)	物質そのものの量と重力の大きさとの関係について理解している。	③	34.5%	28.5%
⑤(2)	表の値から、ばねののびとおもりの重さの関係を見いだすことができる。	②	23.2%	20.4%
⑤(3)	測定結果から力の大きさを考えることができる。	①	21.2%	20.3%
⑥(1)	鏡や池に映る像を光の反射と関連付けて理解している。	②	79.7%	76.4%
⑥(2)	光の反射による現象について理解している。	③	30.1%	26.4%
⑥(3)	光の反射と屈折から、対象物の見え方を考えることができる。	③	59.9%	55.5%
⑦(1)①	火山や火山噴出物とマグマの性質との関連を理解している。	③	45.2%	42.8%
⑦(1)②	火山の形とマグマの粘性との関係について理解している。	③	48.8%	48.2%
⑦(2)	日本列島付近の火山や震源の分布などがプレートの動きによって説明することができる。	①	41.9%	39.4%
⑧(1)	地層を構成する堆積岩は、粒の大きさや構成物質に違いがあることが分かる。	②	71.5%	72.0%
⑧(2)	地層を観察し、堆積環境や生成年代が推定できることを理解している。	③	43.8%	42.9%
⑧(3)	断層、しゅう曲について、大地の変動と関連付けて考えることができる。	①	27.3%	29.8%

(評価の観点) ①科学的な思考・表現 ②観察・実験の技能 ③自然事象についての知識・理解

※網掛けは、正答率が低く、授業改善のポイントで取り上げた問題

中学校理科

出題のねらい▶ 表の値から、ばねののびとおもりの重さの関係を
見いだすことができる。

- ⑤ (2) ばねAののびが 12 cm になるときのおもりの重さとして最も適切なものを、次のア～エの中
から1つ選び記号で答えなさい。

ア 2N イ 3N
ウ 6N エ 12N

おもりの重さ [N]	0	2	4	6	8
ばねAの長さ [cm]	8	12	16	20	24
ばねBの長さ [cm]	10	12	14	16	18

【正答】ウ 【正答率】立川市 20.4% 東京都 23.2%

【この問題を間違えた理由についての分析】

誤答の中で最も多いのは「ア」です。この誤答の要因として考えられるのは、ばねののびを
誤ってばねの長さとして捉えたことによるものと考えられます。

立川スタンダードを活用した授業改善のポイント

D 自ら得た情報から必要な情報を取り出し、比較・関係付ける を活用する。

- 観察・実験の結果を表やグラフに処理する活動を取り入れ、必要な情報を取り
出したり、比較・関係付けたりする指導の充実を図ることがポイントです。

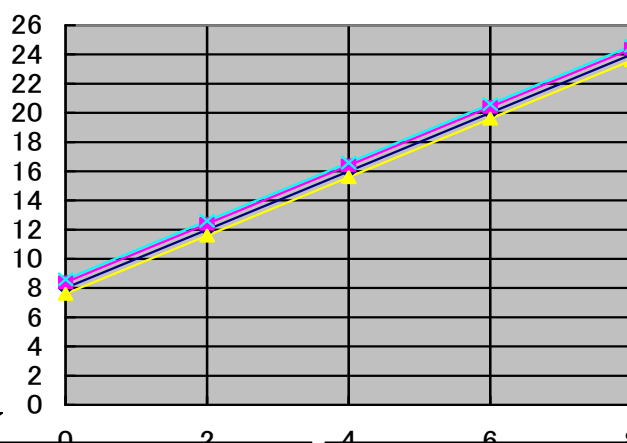
例えば、物体の変形については、ばねにおもりをつるしてばねののびを測定する実験を行い、
測定結果から力の大きさとばねののびが比例することを見いだし、力の大きさはばねの変形の
量で測定できることを理解させます。また、測定結果の処理に際しては、測定値には誤差が必ず
含まれていることを踏まえた上で規則性を見いだし、誤差の扱いやグラフ化など、測定値の処理の仕方の基礎を習得させることが大切です。

C2: 班によって多
少の違いがあるけ
ど、傾向としては同
じだ。

C3: おもりの重さ
が2倍になると、ば
ねののびはおおよ
そ2倍になる。

C4: ばねののびとおもりの重さは、「比例」
の関係にあると言えそう。

【ばねAの長さ [cm] とおもりの重さ [N]】



C1: どの班の結果も
同じような傾向が見
られるから、妥当な結
果だと言えそう。

C5: 力の大きさはばねののび（ばねの変形の
量）で測定できるのではないかな。

中学校英語の評価の観点及び問題ごとの正答率

	外国語理解の 能力	外国語表現の 能力	言語や文化についての 知識・理解	教科平均
東京都	62.4%	46.1%	59.2%	57.5%
立川市	59.3%	42.3%	57.3%	54.5%

問題 番号	出題のねらい	評価の 観点	東京都	立川市
①(1)	疑問詞のある疑問文に適切に応答できる。	②	45.9%	43.9%
①(2)	相手からの質問に適切に応答できる。	②	34.3%	25.3%
①(3)	相手からの質問に適切に応答できる。	②	59.5%	69.5%
②(1)	まとまりのある英文を聞いて、詳細を理解することができる。	②	72.7%	69.2%
②(2)	まとまりのある英文を聞いて、概要を理解することができる。	②	82.9%	80.4%
②(3)	まとまりのある英文を聞いて、要点を理解することができる。	②	84.2%	84.1%
③	伝えたい内容を正確な英文で書くことができる。	①	57.8%	64.3%
④(1)	時に関する前置詞の意味を理解している。	③	40.3%	36.0%
④(2)	場所に関する前置詞の意味を理解している。	③	84.8%	85.5%
⑤	場面や状況に応じて適切に表現することができる。	①	37.8%	32.6%
⑥	質問に対し、場面や状況に応じた正しい英語を用いてつながりのある2文で応答できる。	①	29.4%	25.2%
⑦(1)	まとまりのある英文を読んで、詳細を理解することができる。	②	87.8%	83.8%
⑦(2)	まとまりのある英文を読んで、趣旨を理解することができる。	②	60.6%	58.2%
⑧(1)	「What＋名詞」で始まる疑問文の語順を理解している。	③	42.2%	33.8%
⑧(2)	「How」を用いた疑問文の語順を理解している。	③	74.5%	76.4%
⑨	目的に応じた内容を英文で表現することができる。	①	40.9%	31.3%
⑩(1)	複数を主語とする文の be 動詞の用法を理解している。	③	60.5%	63.0%
⑩(2)	「do/does」の用法を理解している。	③	53.2%	49.2%
⑪	場面や状況に応じて、適切な表現を用いて応答することができる。	①	56.9%	50.3%
⑫	目的に応じて必要な情報を読み取ることができる。	②	71.9%	67.6%
⑬(1)	目的に応じて概要を読み取ることができる。	②	46.8%	40.4%
⑬(2)	目的に応じて必要な情報を読み取ることができる。	②	54.1%	48.6%
⑬(1)	目的に応じて必要な情報を読み取ることができる。	②	47.8%	40.6%
⑭	目的、場面、状況に応じて、適切な英文を書くことができる。	①	53.4%	50.1%

(評価の観点) ①外国語表現の能力 ②外国語理解の能力 ③言語や文化についての知識・理解

※網掛けは、授業改善のポイントで取り上げた問題

中学校英語

出題のねらい▶文の中における主語と述語の関係について
理解している。

② (3) まとまりのある英文を聞いて、要点を理解することができる。

アユミ (Ayumi) が、英語の授業で行ったスピーチを聞き、このスピーチでアユミが一番伝えたいことは何か、最も適切なものを、ア～エの中から1つ選びなさい。

ア 自分は、一人で黙々と練習を続けているということ

イ 去年は、夏に初めてバスケットボールの試合に出たということ

ウ 自分は、友人と一緒にバスケットボールを楽しんでいるということ

エ 去年は、試合の中で友人をたくさん助けたということ

＜放送文＞

Hello, everyone. My name is Ayumi. Today, I want to talk about basketball.

I'm a member of a basketball club. My friends and I practice a lot together.

We had a very big game last winter. It was our first game. My friends helped me a lot in the game.

I enjoy basketball with my friends very much. Thank you.

【この問題を間違えた理由についての分析】

まとまりのある英文を聞いて、要点を理解することができるかをみる問題です。正答は「ウ」で、84.1%の正答率です。誤答の要因として、「I enjoy basketball with my friends very much.」という英文を聞き取ることができず、このスピーチの要点を正確に理解することができなかったことによるものと考えられます。

【正答】ウ

【正答率】

立川市

84.1%

東京都

84.2%

立川スタンダードを活用した授業改善のポイント

D 自ら得た情報から必要な情報を取り出し、比較・関連付ける

を活用する。

○言葉の特徴やきまりに関する基礎的な事項を様々な場面で活用させる指導の充実を図ることがポイントです。

「聞くこと」の指導では、「必要な情報」、「概要」、「要点」など、目的に応じて何を聞き取るのかを明確にした上で、生徒に聞かせることが大切です。例えば「必要な情報」を聞き取るためには、話されること全てを詳細に聞き取ろうとするのではなく、聞きたい情報をはっきりさせて、それに関連する英語表現に注意を払って聞き取る力を身に付けさせることが必要です。また、「概要」をとらえるためには話の特定の部分にとらわれることなく、全体像をつかみ取るような聞き取りをする必要があります。何のために聞くのか目的をはっきりとさせた上で、聞き取りのポイントを示したり、聞き取りのポイント自体を生徒自身に考えさせたりすることが大切です。

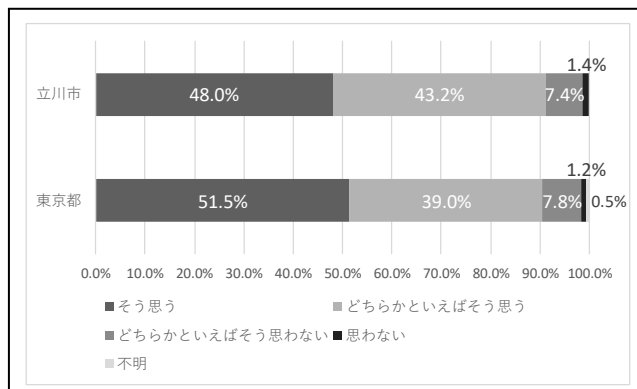
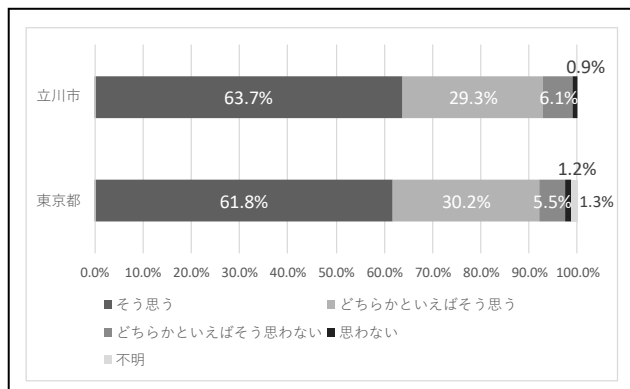
具体的な指導としては、「①場面設定（店、公共交通機関など）を理解する。②どういう情報が必要な状況であるかを考える。③自分が必要とする情報と関連する語句に着目して、目的をもって聞き取る。」といった手順の言語活動を通して指導することが考えられます。

学校質問紙、児童・生徒質問紙の結果より

◇児童・生徒質問紙調査「授業の中で（めあて・ねらい）が示されていると思いますか。

（小学校）

（中学校）

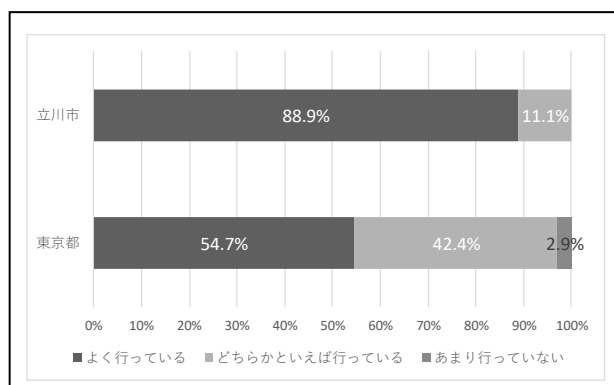
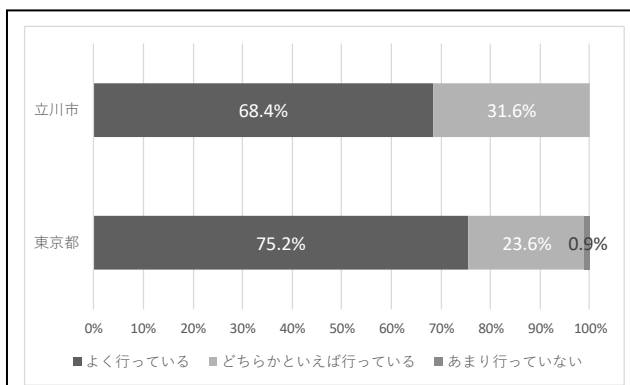


- 小学校は、立川市の児童の 93 %の児童が肯定的な回答をしており、東京都に比べて若干多い。
- 中学校は、立川市の生徒の約 91 %の生徒が肯定的な回答をしており、東京都に比べても多い。
- 一方で、児童・生徒ともに 7～9 %が、東京都と同様に否定的な回答をしている。

◇学校質問紙調査【「授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れている。」】

（小学校）

（中学校）



- 立川市の小学校は、「よく行っている」という回答は東京都より少ないものの、全ての学校が肯定的な回答をしている。
- 立川市の中学校は、「よく行っている」と回答した割合が、東京都を大きく上回り、全ての学校が肯定的な回答をしている。

児童・生徒質問紙と学校質問紙を合わせた考察と授業改善のポイント

◇児童・生徒質問紙、学校質問紙ともに、9割以上が肯定的な回答をしており、立川スタンダードを中心として各校のスタンダードを生かした授業が展開されていると考えられます。

◇一方で、授業の目標の提示に関して、児童・生徒と教師とでは意識の差が見られます。

（学校質問紙では、全校肯定的な回答をしているものの、児童は7%、生徒は約9%が否定的な回答をしている。）前時の振り返りや既習事項を押さえてからめあてを提示したり、児童・生徒に目標を考えさせたりする等児童・生徒が授業の目標を自覚して取り組むことができる学習活動を促進し、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善の更なる充実を図りましょう。

